

株 主 各 位

名古屋市港区いろは町1丁目23番地

日東エフシー株式会社

代表取締役社長 渡 邊 要

第61回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第61回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席下さいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討下さいまして、同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、平成24年12月20日（木曜日）午後5時20分までに到着するようご返送いただきたくお願い申し上げます。

敬 具

記

- 日 時 平成24年12月21日（金曜日）午前10時
- 場 所 名古屋市中区正木三丁目7番15号
金山プラザホテル（ゼミナールプラザ4階会議室）
- 会議の目的事項
報 告 事 項
 - 第61期（平成23年10月1日から平成24年9月30日まで）
事業報告、連結計算書類及び計算書類報告の件
 - 会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
決 議 事 項
 - 第1号議案 取締役8名選任の件
 - 第2号議案 補欠監査役1名選任の件
 - 第3号議案 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件

以 上

-
- 当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付へご提出下さいますようお願い申し上げます。
 - 株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.nittofc.co.jp/>）に掲載させていただきます。

事業報告

(平成23年10月1日から平成24年9月30日まで)

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要に支えられ緩やかな回復基調にあるものの、長期化する円高や欧州債務危機による世界経済の減速などにより、先行きの見通せない状況で推移いたしました。

肥料業界におきましては、施肥節減や流通在庫の圧縮に加え、年2回肥料価格を改定する2期制の定着化などにより、農家は価格動向にも敏感となっており、各社の競争は激化しております。また、東日本大震災や福島第一原発事故による被災農地の復旧状況や農産物の安全性への関心の高まりなど、生産や需要動向に及ぼす影響が懸念されております。

このような状況のもと、肥料事業におきましては、生産効率と品質管理の向上を図るとともに、顧客ニーズに対応した技術指導や情報サービス等の付加価値を伴う営業活動を推進し受注の拡大に努めてまいりました。

商社事業におきましては、顧客ニーズに応えた商品の提供に努めるとともに、国際市況と国内需要動向等を注視しつつ受注の拡大と収益力の向上に注力してまいりました。

また、不動産賃貸事業におきましては、所有している賃貸物件毎の収益性や稼働率の向上を図り、その他事業ではホテル・運送・倉庫の各部門とも稼働率や顧客サービスの向上等により収益力の強化に努力いたしました。

この結果、当連結会計年度における連結売上高は172億13百万円（前期比1.1%増）、営業利益は21億47百万円（前期比11.1%増）、経常利益は25億59百万円（前期比42.9%増）と順調に推移いたしました。減損損失16億21百万円を計上したため当期純損失は1億9百万円（前期は8億10百万円の当期純利益）となりました。

(2) 事業別の概況

事業区分別売上高

期 別 事業区分	第 60 期 平成23年 9 月期	第 61 期 (当連結会計年度) 平成24年 9 月期	前期比増減(△は減)	
			金額	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
肥 料 事 業	11,690	11,834	143	1.2
商 社 事 業	3,719	3,841	121	3.3
不動産賃貸事業	1,224	1,139	△85	△7.0
そ の 他 事 業	693	690	△3	△0.5
消 去	△300	△291	8	3.0
合 計	17,028	17,213	184	1.1

(肥料事業)

肥料価格改定に伴う前倒し需要への対応などきめ細かく受注の確保に努め、売上高118億34百万円（前期比1.2%増）となりました。

(商社事業)

弾力的な価格への対応など受注の確保を図り、売上高38億41百万円（前期比3.3%増）となりました。

(不動産賃貸事業)

NFC名駅ビルの建替えによる影響が大きく減収となり、売上高11億39百万円（前期比7.0%減）となりました。

(その他事業)

ホテル・運送・倉庫の各部門とも稼働率の向上に努めましたが、その他事業全体では、売上高6億90百万円（前期比0.5%減）となりました。

(3) 設備投資及び資金調達の状況

当連結会計年度において実施いたしました設備投資の総額は、5億27百万円であり、全て自己資金をもって充ちいたしました。

(4) 財産及び損益の状況

①企業集団の財産及び損益の状況の推移

区 分	期 別			
	第 58 期 平成21年 9 月期	第 59 期 平成22年 9 月期	第 60 期 平成23年 9 月期	第 61 期 (当連結会計年度) 平成24年 9 月期
売 上 高 (百万円)	21,862	17,055	17,028	17,213
経 常 利 益 (百万円)	2,886	1,600	1,791	2,559
当期純利益又は 当期純損失 (△) (百万円)	1,619	920	810	△109
1株当たり当期純利益 又は当期純損失 (△)	56円13銭	33円07銭	30円03銭	△4円13銭
総 資 産 (百万円)	44,562	43,786	43,900	43,566
純 資 産 (百万円)	38,707	38,161	38,370	37,561
1株当たり純資産額	1,342円79銭	1,414円20銭	1,421円95銭	1,416円66銭

②当社の財産及び損益の状況の推移

区 分	期 別			
	第 58 期 平成21年 9 月期	第 59 期 平成22年 9 月期	第 60 期 平成23年 9 月期	第 61 期 (当 期) 平成24年 9 月期
売 上 高 (百万円)	14,262	12,267	12,223	12,437
経 常 利 益 (百万円)	2,934	1,311	1,222	2,222
当期純利益又は 当期純損失 (△) (百万円)	1,774	837	548	△181
1株当たり当期純利益 又は当期純損失 (△)	61円48銭	30円09銭	20円31銭	△6円84銭
総 資 産 (百万円)	40,210	39,615	39,423	39,196
純 資 産 (百万円)	35,186	34,547	34,497	33,620
1株当たり純資産額	1,220円64銭	1,280円26銭	1,278円42銭	1,268円01銭

(5) 対処すべき課題

国内農業は、戸別所得補償制度をはじめとする政府の諸施策により、食料自給率の向上を図り、食の安全安心を確保するのみならず、規模の拡大や6次産業化により競争力と付加価値を高めるなか、自然環境の保全や地球環境問題に加え、T P P（環太平洋経済連携協定）への加入問題や被災農地の復旧にも対処を要するなど、多岐にわたる抜本的な農業構造改革に伴う政策の進展により、一段と多様な方向へ対応が求められております。

肥料事業におきましては、こうした変化を的確に把握することにより、今後の農業の発展に寄与するものとして、技術指導、情報サービスのさらなる充実を図りますとともに、安全と環境に配慮した適正な品質管理のもと、生産性の向上に努め、確かな品質と経済性を備えた新製品を開発するなどにより、着実に競争力を高め、業績の向上を目指してまいります。

商社事業におきましては、堅調に推移したアグリと化学品の既存2部門に頼るのみでなく、新たな収益源の確保が課題のため、人材の補強による組織力の強化に努めてまいります。

不動産賃貸事業では、老朽化のため建替え工事中のN F C名駅ビルが、平成25年秋には竣工のうえロイヤルパークホテルズアンドリゾーツ、ファミリーマート及びオリックス自動車テナントを迎えオープン予定など、事業基盤の整備に努めておりますが、今後も長期的展望に立って所在地の分散にも配慮のうえ優良物件の取得に取り組むなど、収益基盤の安定を図りたいと考えております。

また、その他事業でも、長期的視点での収益貢献の観点より、各部門の事業基盤の整備を進めてまいります。

さらなる事業の進展に向けて、グループ一丸となって努力する所存でございますので、株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(6) 重要な子会社の状況 (平成24年9月30日現在)

会 社 名	資 本 金	議決権比率	主要な事業内容
協 同 肥 料 株 式 会 社	310百万円	100.00%	肥 料 の 製 造 販 売
北 海 道 肥 料 株 式 会 社	40	100.00	肥 料 の 製 造 販 売
中 日 本 肥 料 株 式 会 社	36	100.00	肥 料 の 製 造 販 売
丸 菱 肥 料 株 式 会 社	20	100.00	肥 料 の 製 造 販 売
新 東 化 学 工 業 株 式 会 社	11	100.00	肥 料 の 製 造 販 売
明 京 商 事 株 式 会 社	60	100.00	肥 料 ・ 化 学 品 の 輸 入 販 売
日 東 運 輸 倉 庫 株 式 会 社	40	100.00	一 般 貨 物 の 運 送
名 京 倉 庫 株 式 会 社	30	100.00	一 般 貨 物 の 保 管 荷 役

(7) 主要な事業内容 (平成24年9月30日現在)

事 業 区 分	事 業 内 容
肥 料 事 業	複 合 肥 料 (化成肥料、配合肥料、ペレット肥料、液体肥料、水耕栽培専用肥料) りん酸質肥料 (過りん酸石灰) 商 品 (転売用原料) そ の 他 (土壌改良資材、融雪剤、人工床土、園芸資材)
商 社 事 業	肥料・工業用原材料等の輸入販売
不 動 産 賃 貸 事 業	オフィスビル、ショッピングセンター、倉庫、店舗、駐車場
そ の 他 事 業	ホ テ ル 事 業 (ビジネスホテルの運営) 運 送 事 業 (肥料事業及び一般貨物の運送業務) 倉 庫 事 業 (肥料事業及び一般貨物の保管・荷役業務)

(8) 主要な営業所及び工場（平成24年9月30日現在）

① 当社

名 称	所 在 地
本社、名古屋営業所、名古屋工場	名古屋市港区
千葉支店、千葉工場	千葉市原市
室蘭支店、室蘭工場	北海道室蘭市
苫小牧工場	北海道苫小牧市
天北工場	北海道天塩郡幌延町
金山プラザホテル	名古屋市中区

② 子会社

会 社 名	所 在 地	事 業 区 分
協同肥料株式会社	名古屋市港区	肥料事業
北海道肥料株式会社	北海道室蘭市	肥料事業
明京商事株式会社	東京都千代田区	商社事業
日東運輸倉庫株式会社	名古屋市港区	その他事業
名京倉庫株式会社	愛知県海部郡飛島村	その他事業

(9) 従業員の状況（平成24年9月30日現在）

① 企業集団の従業員の状況

事 業 区 分	従 業 員 数	前期末比増減
肥料事業	245名	1名増
商社事業	14名	1名減
不動産賃貸事業	8名	3名増
その他事業	34名	5名減
全社	32名	2名増
合計	333名	増減なし

(注) 従業員数は就業人員数であり、臨時従業員32名（嘱託契約の従業員、パートタイマー及びアルバイトの年間平均人員）は含まれておりません。

② 当社の従業員の状況

区 分	従 業 員 数	前期末比増減	平 均 年 齢	平均勤続年数
男 性	224名	3名減	39.0歳	14.8年
女 性	36名	1名減	36.8歳	12.5年
合計又は平均	260名	4名減	38.7歳	14.5年

(注) 従業員数は就業人員数であり、他社からの出向者1名は含まれ、他社への出向者11名、臨時従業員25名（嘱託契約の従業員、パートタイマー及びアルバイトの年間平均人員）は含まれておりません。

2. 会社の株式に関する事項（平成24年9月30日現在）

- (1) 発行可能株式総数 60,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 29,201,735株
(うち自己株式 2,687,220株)
- (3) 株 主 数 3,839名
(前期末比 84名減)
- (4) 大 株 主

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
渡 辺 商 事 株 式 会 社	5,316千株	20.05%
株 式 会 社 A. 1	1,790	6.75
三 井 物 産 株 式 会 社	1,556	5.86
東 邦 総 合 サ ー ビ ス 株 式 会 社	1,210	4.56
日 本 生 命 保 険 相 互 会 社	1,141	4.30
渡 邊 要	849	3.20
三井住友海上火災保険株式会社	813	3.06
渡 邊 浩 史	705	2.66
渡 邊 孝 司	521	1.96
三 菱 商 事 株 式 会 社	506	1.90

(注) 持株比率は自己株式（2,687,220株）を控除して計算しております。

3. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の状況（平成24年9月30日現在）

地 位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役社長	渡 邊 要	中日本肥料株式会社 代表取締役 丸菱肥料株式会社 代表取締役 新東化学工業株式会社 代表取締役 明京商事株式会社 代表取締役
常 務 取 締 役	杉 本 智	総務本部長
常 務 取 締 役	水 谷 勇	不動産事業部長 日東運輸倉庫株式会社 代表取締役
常 務 取 締 役	後 藤 浩	製造本部長兼研究開発部長
取 締 役	脇 田 定 彦	営業本部長
取 締 役	寺 嶋 隆	業務部長
取 締 役	武 田 聡	経理部長
常 勤 監 査 役	佐 藤 秀 夫	
監 査 役	林 茂 彦	
監 査 役	森 川 利 政	

- (注) 1. 常勤監査役佐藤秀夫氏、監査役林茂彦氏は、社外監査役であり、また、当社は両氏を東京証券取引所及び名古屋証券取引所に独立役員として届け出ております。
2. 常勤監査役佐藤秀夫氏、監査役林茂彦氏は、長年にわたる金融機関での業務経験を有しており、企業財務に関する相当程度の知見を有するものであります。

(2) 取締役及び監査役の報酬等の額

取締役 9名 118,493千円

監査役 4名 8,900千円（うち社外監査役 2名 7,600千円）

- (注) 1. 上記の取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人給与相当額33,000千円は含まれておりません。
2. 上記の報酬等の額には、当事業年度に係る役員退職慰労引当金繰入額24,343千円を含んでおります。
3. 取締役の報酬限度額は、平成19年12月21日開催の第56回定時株主総会において年額240,000千円以内と決議いただいております。（使用人兼務取締役の使用人としての給与は含みません。）
4. 監査役の報酬限度額は、平成19年12月21日開催の第56回定時株主総会において年額24,000千円以内と決議いただいております。
5. 上記の支給人員には、平成23年12月22日開催の第60回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役2名及び監査役1名を含んでおります。
6. 上記のほか、第60回定時株主総会の決議に基づき、退任した取締役2名に対し21,580千円及び監査役1名に対し400千円の退職慰労金を支給しております。

(3) 社外役員に関する事項

① 重要な兼職先と当社との関係
該当事項はありません。

② 当事業年度における主な活動状況

地 位	氏 名	主 な 活 動 状 況
常勤監査役	佐藤秀夫	当事業年度開催の取締役会17回、監査役会12回の全てに出席し、幅広い見識から適宜発言を行っております。
監 査 役	林 茂彦	当事業年度開催の取締役会17回のうち12回、監査役会12回の全てに出席し、幅広い見識から適宜発言を行っております。

4. 会計監査人に関する事項

(1) 会計監査人の名称 有限責任監査法人トーマツ

(2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

① 当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額 21,500千円

② 当社及び子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額
21,500千円

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を区分しておらず、実質的にも区分できないため、①の金額にはこれらの合計額を記載しております。

(3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

(4) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役の全員の同意に基づき監査役会が会計監査人を解任する方針です。

この場合、解任後最初に招集される株主総会におきまして、監査役会が選定した監査役から、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告する方針です。

また、会計監査人の業務執行状況その他諸般の事情を総合的に勘案して再任しないことが適切であると判断した場合は、監査役会の同意を得た上で、取締役会において、当該会計監査人を不再任とし、新たな会計監査人を選任する議案を株主総会に提出することを決定する方針です。

5. 会社の体制及び方針

(1) 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制

当社が業務の適正を確保するための体制として決議した内部統制システムの基本方針は、以下のとおりであります。

① 取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、業務執行全般について、各業務に関する管理規程を設け、これを内部監査により補完してコンプライアンスの確保に努めてまいりましたが、金融商品取引法に対応するため内部統制監査を実施して、より強固な体制へと整備を進めております。

取締役会及び経営会議など社長を議長とする重要会議において、コンプライアンス及びリスク管理に関する案件を審議することにより取締役全体の意識を高めたうえ、各取締役が統括する部門において所属する構成員の啓発に努め、全社的なコンプライアンス意識の向上を図り、報告・連絡・相談励行規程を設けて情報を共有するとともに、社内における問題の相談窓口を総務本部とし、通報者への不利益扱いの防止にも配慮しております。更に、コンプライアンス・ガイドライン及び内部通報制度運用規程を制定し、コンプライアンス体制の整備を進めております。

② 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、創業から間もなく伊勢湾台風という大災害に被災した経験から、リスクの分散を図るため、関東、北海道へと拠点を設け全国3工場体制を取り、各工場ともに、名古屋には本社機能を有し、千葉、室蘭には各支店を併設して、工場と事務管理、営業の機能が緊密なあらゆる問題に機動的に対応できる体制としており、情報システムにつきましても、本社及び各支店に設置したサーバーに双方のデータを保存することにより、重要な情報を喪失する危険性を防止しております。また、経理面においては、各部門による自律的な管理を基本としつつも、本社経理部が全社的に計数的な管理を実施しております。

当社は、本社製造本部が各工場における環境面、安全衛生面を管理しており、各工場では、安全管理者、衛生管理者が安全衛生の業務に就き、毎月開催する安全衛生委員会において、問題点の改善に努力するとともに、事故に際しては、関係者よりレポートを提出させ、必要な措置を講ずるなど再発の防止に努めております。

有事においては、社長を本部長とする緊急対策本部を設置して危機管理に当たることとし、平時においては、各部門においてそれぞれの有するリスクを洗い出し、対策に取り組んでおります。

③ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、定例の取締役会を毎月1回開催して重要事項を決定し、併せて取締役の業務執行状況を報告させることにより相互の監督等を実施しております。

取締役会の機能をより強化し経営効率の向上を図るため、社長以下取締役本部長及び常勤監査役をメンバーとする経営会議を毎月開催し、業務執行の基本的事項に係る意思決定を機動的に実施し、重要な案件については十分に議論しております。

業務の運営については、将来の事業環境を見据えた年度予算を策定し、全社的な目標を設定のうえ各部門において、その目標達成に向け具体策を立案し実行しております。

④ 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社は、法令及び社内規程に基づき文書等を保存するとともに、情報の管理については、個人情報保護規程を制定し、情報セキュリティ及び個人情報の保護に努めております。

また、機密情報の漏洩防止対策といたしましては、従来の文書管理規程等に加え、個人用パソコンの社内持込みを禁止し、ウィルス対策ソフトを最新のものに更新するとともに、情報セキュリティ管理規程を制定しております。

⑤ 当社企業グループにおける業務の適正を確保するための体制

当社は、当社企業グループを構成する各社の社長及び実務担当者を構成員とし、当社社長を議長とする関係会社社長連絡会を毎月開催し、経営状況の報告と懸案事項の検討を実施しております。

また、関係会社管理部署を経営企画部と定め、各社における業務執行状況の報告を求め、重要事項については稟議書を提出して当社社長の決裁を得させるものとし、当社の取締役会に毎月の状況を報告して必要事項を承認のうえ、定期的に内部監査を実施することによりその適正を確保しております。

⑥ 監査役の職務を補助すべき使用人

監査役の職務を補助すべき使用人が必要なときは、監査役の業務補助のため監査役スタッフを置くものとし、その人事については取締役と監査役が意見を交換することとしております。

⑦ 監査役への報告体制及びその他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

取締役は、会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実を発見したときは、法令に従い直ちに監査役に報告します。

常勤監査役は、取締役会に出席して意見を述べるほか、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、経営会議、関係会社社長連絡会など重要な会議に出席するとともに、主要な稟議書その他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じて取締役又は使用人に説明を求めています。

更に監査役は、当社会計監査人であります有限責任監査法人トーマツから会計監査の内容について説明を受け、情報を交換するなどの連携を図るとともに、常に内部監査部門との連絡を密にし、監査の実効を上げるべく努めております。

(2) 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会の決議により定めることができる旨を定款に定めております。

剰余金の配当については、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題として位置付けており、将来の事業展開と経営体質の強化のために内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続していくことを基本方針としております。

当事業年度の期末配当につきましては、平成24年11月12日開催の取締役会において、1株につき10円と決議しております。これにより、1株当たり年間配当金は、中間配当10円とあわせて20円となります。

連結貸借対照表

(平成24年9月30日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	21,808,168	流動負債	4,268,013
現金及び預金	9,103,280	支払手形及び買掛金	1,806,809
受取手形及び売掛金	5,303,422	未払金	532,224
有価証券	1,999,727	未払法人税等	734,908
商品及び製品	2,215,726	未払消費税等	37,110
仕掛品	246,078	賞与引当金	217,733
原材料及び貯蔵品	2,479,992	役員賞与引当金	400
繰延税金資産	249,531	その他	938,827
その他	211,634	固定負債	1,736,293
貸倒引当金	△1,226	繰延税金負債	336,244
固定資産	21,758,115	退職給付引当金	25,178
有形固定資産	16,488,133	役員退職慰労引当金	203,331
建物及び構築物	3,840,355	長期前受収益	741,780
機械装置及び運搬具	326,866	その他	429,759
土地	11,850,867	負債合計	6,004,307
建設仮勘定	438,343	(純資産の部)	
その他	31,700	株主資本	37,474,096
無形固定資産	582,142	資本金	7,410,675
借地権	453,619	資本剰余金	9,100,755
鉱業権	111,591	利益剰余金	22,270,404
その他	16,932	自己株式	△1,307,739
投資その他の資産	4,687,839	その他の包括利益累計額	87,880
投資有価証券	3,662,348	その他有価証券評価差額金	87,884
長期前払費用	252,294	繰延ヘッジ損益	△4
繰延税金資産	10,668	純資産合計	37,561,976
その他	764,533	負債及び純資産合計	43,566,284
貸倒引当金	△2,005		
資産合計	43,566,284		

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(平成23年10月1日から平成24年9月30日まで)

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上 高		17,213,596
売 上 原 価		13,046,805
売 上 総 利 益		4,166,790
販売費及び一般管理費		2,019,485
営 業 利 益		2,147,305
営 業 外 収 益		
受取利息及び配当金	65,010	
そ の 他	542,449	607,460
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	248	
そ の 他	195,029	195,278
経 常 利 益		2,559,487
特 別 損 失		
減 損 損 失	1,621,215	
投資有価証券評価損	28,665	
そ の 他	1,029	1,650,910
税金等調整前当期純利益		908,576
法人税、住民税及び事業税	962,165	
法人税等調整額	56,083	1,018,248
少数株主損益調整前当期純損失		109,671
当 期 純 損 失		109,671

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(平成23年10月1日から平成24年9月30日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計
平成23年10月1日残高	7,410,675	9,100,755	22,915,068	△1,099,958	38,326,539
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△534,991		△534,991
当期純利益			△109,671		△109,671
自己株式の取得				△207,780	△207,780
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					—
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△644,663	△207,780	△852,443
平成24年9月30日残高	7,410,675	9,100,755	22,270,404	△1,307,739	37,474,096

(単位：千円)

	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額			純 資 産 合 計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	その他の包括利益 累計額合計	
平成23年10月1日残高	44,293	2	44,296	38,370,836
連結会計年度中の変動額				
剰余金の配当			—	△534,991
当期純利益			—	△109,671
自己株式の取得			—	△207,780
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	43,590	△6	43,584	43,584
連結会計年度中の変動額合計	43,590	△6	43,584	△808,859
平成24年9月30日残高	87,884	△4	87,880	37,561,976

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数

協同肥料㈱、北海道肥料㈱、中日本肥料㈱、丸菱肥料㈱、新東化学工業㈱、
中菱肥料㈱、日東運輸倉庫㈱、名京倉庫㈱、明京商事㈱及び(有)興農社の10社
であります。

(2) 非連結子会社

非連結子会社はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

関連会社は全て持分法を適用しております。当該持分法適用会社は菱東肥料㈱、
太陽肥料㈱及び㈱イシカワの3社であります。

3. 連結会計年度に関する事項

全ての連結子会社の事業年度の末日は連結決算日と一致しております。

4. 重要な会計方針

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの……………期末日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理
し、売却原価は移動平均法により算定して
おります。)

時価のないもの……………移動平均法による原価法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品、製品、原材料及び仕掛品…総平均法による原価法(収益性の低下によ
る簿価切下げの方法)

貯蔵品……………最終仕入原価法による原価法(収益性の低
下による簿価切下げの方法)

(2) 重要な固定資産の減価償却の方法

有形固定資産……………定率法

(リース資産を除く)

ただし、平成10年4月1日以降取得の建物
(建物附属設備を除く)については、定額
法によっております。

なお、主な科目の耐用年数は、建物及び構
築物が8～50年、機械装置及び運搬具が2
～10年であります。

無形固定資産……………定額法

(リース資産を除く)

なお、定期借地権については賃借期間に応
じて均等償却しております。

- リース資産……………リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年9月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
- (3) 重要な引当金の計上基準
- 貸倒引当金……………債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- 賞与引当金……………従業員の賞与の支払いに備えるため、支給見込額を計上しております。
- 役員賞与引当金……………役員に対し支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度の負担額を計上しております。
- 退職給付引当金……………従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。
 ただし、当連結会計年度末において年金資産が退職給付債務を超過している会社については、その超過額（前払年金費用252,948千円）を投資その他の資産の「その他」に含めて計上しております。
 なお、数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理しております。
- 役員退職慰労引当金……………役員の退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。
- (4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準
 外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
- (5) その他連結計算書類作成のための重要な事項
 消費税等の会計処理方法
 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(追加情報)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

(連結貸借対照表に関する注記)

有形固定資産の減価償却累計額

建物及び構築物	9,235,269千円
機械装置及び運搬具	5,489,084
その他の	258,772
合 計	14,983,126

(連結損益計算書に関する注記)

減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	種類	場所	金額(千円)
賃貸資産	土地	岐阜県多治見市	1,621,215

当社グループは、事業用資産については事業セグメントを基に、賃貸資産、遊休資産及び売却予定資産は物件ごとにグルーピングを行っております。

地価の下落により時価が著しく下落した不動産賃貸事業におけるNFC多治見店に係る資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(1,621,215千円)として特別損失に計上いたしました。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、建物及び土地については不動産鑑定評価書に基づく金額により評価しております。ただし、回収可能価額の算定に際しては、平成14年9月に㈱ダイエーとの賃貸借契約解除に伴い受領した残存賃貸借期間(平成14年10月から平成29年11月まで)に係る未経過家賃補填金(期末現在残高919,800千円)を、正味売却価額に含めております。

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当連結会計年度の末日における発行済株式の総数
普通株式 29,201,735株
2. 当連結会計年度の末日における自己株式の数
普通株式 2,687,220株
3. 当連結会計年度中に行った剰余金の配当に関する事項

決 議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基 準 日	効力発生日
平成23年11月11日 取締役会	普通株式	269,845	10.00	平成23年9月30日	平成23年12月8日
平成24年4月27日 取締役会	普通株式	265,145	10.00	平成24年3月31日	平成24年6月1日

4. 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力が翌連結会計年度となるもの

決 議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基 準 日	効力発生日
平成24年11月12日 取締役会	普通株式	利益剰余金	265,145	10.00	平成24年9月30日	平成24年12月7日

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融商品による運用に限定し、資金調達については輸入取引に係る短期的な資金を連結子会社が銀行借入により調達しております。デリバティブ取引は、商品及び原材料の輸入に係る外貨建債務の為替変動リスクをヘッジするために利用しており、短期的な売買差益を獲得する目的（トレーディング目的）や投機的な取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクにさらされております。当該リスクに関しては、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、各営業部門は取引先の信用状態に関する情報を収集して、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

有価証券及び投資有価証券は、主として、業務上の関係を有する企業の株式や、一時的な資金を運用するための債券及び投資信託であり、市場価格の変動リスク及び信用リスクにさらされております。当該リスクに関しては、有価証券取扱規程における有価証券売買管理細則に従い、資金運用目的の株式を取得しないとともに、定期的に保有銘柄の時価や発行体の財務状況等を把握し、また、株式については取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

営業債務である支払手形及び買掛金、未払金はそのほとんどが6ヶ月以内の支払期日であります。買掛金の一部には商品及び原材料の輸入に伴う外貨建のものがあり、為替変動リスクにさらされております。当該リスクに関しては、デリバティブ取引を利用して将来の為替変動により円貨での支払額が増加するリスクをヘッジしております。また、営業債務の流動性リスクの管理は、当社グループ各社が月次で資金繰計画を作成するなどの方法により行っております。

デリバティブ取引は、外貨建債務及び外貨建予定取引の為替変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引、通貨オプション取引及びクーポンスワップ取引であります。デリバティブ取引の実行及びリスク管理は、デリバティブ取引管理規程に基づき行っております。なお、デリバティブ取引については、実需の範囲内とし、投機的な取引は行っておりません。また、デリバティブ取引の契約先は、信用度の高い大手金融機関であるため、相手方の契約不履行による信用リスクはほとんどないと認識しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成24年9月30日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を算定することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません(注2)参照)。

	連結貸借対照表 計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	9,103,280	9,103,280	—
(2) 受取手形及び売掛金	5,303,422	5,303,422	—
(3) 有価証券及び投資有価証券	4,035,994	4,035,994	—
資産計	18,442,697	18,442,697	—
(4) 支払手形及び買掛金	1,806,809	1,806,809	—
(5) 未払金	532,224	532,224	—
(6) 未払法人税等	734,908	734,908	—
(7) 未払消費税等	37,110	37,110	—
負債計	3,111,052	3,111,052	—
デリバティブ取引(※)	(576,555)	(576,555)	—

(※) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

負 債

(4) 支払手形及び買掛金、(5) 未払金、(6) 未払法人税等、(7) 未払消費税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

取引金融機関から提示された価格を時価としております。

(注2) 非上場株式(連結貸借対照表計上額726,080千円)及び匿名組合出資金(連結貸借対照表計上額900,000千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(賃貸等不動産に関する注記)

当社及び一部の連結子会社では、愛知県、岐阜県その他の地域において、賃貸収益を得ることを目的として賃貸オフィスビルや賃貸商業施設等を保有しております。なお、賃貸オフィスビル、賃貸倉庫の一部については、当社及び連結子会社が使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

これら賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額 (千円)			当連結会計年度末の時価 (千円)
	当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
賃貸等不動産	10,615,442	△1,816,156	8,799,286	9,125,993
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産	98,234	△4,417	93,816	372,099

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。
 2. 当連結会計年度減少額のうち、主なものはNFC多治見店の土地に係る減損損失(1,621,215千円)及び減価償却費(195,632千円)であります。
 3. 当連結会計年度末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額、その他の物件については「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

また、賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する平成24年9月期における損益は、次のとおりであります。

	賃貸収益 (千円)	賃貸費用 (千円)	差額 (千円)	その他損益 (千円)
賃貸等不動産	1,018,472	494,034	524,438	△1,618,860
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産	28,778	9,680	19,098	—

- (注) 賃貸等不動産のその他損益のうち、主なものはNFC多治見店の土地に係る減損損失(△1,621,215千円)であります。

(1株当たり情報に関する注記)

- 1株当たり純資産額 1,416円66銭
- 1株当たり当期純損失 4円13銭

貸借対照表

(平成24年9月30日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	18,481,528	流動負債	3,879,126
現金及び預金	7,195,241	買掛金	1,722,456
受取手形	397,318	未払金	389,256
売掛金	3,840,461	未払費用	88,922
有価証券	1,999,727	未払法人税等	650,210
商品及び製品	1,656,079	未払消費税等	30,339
仕掛品	246,192	前受金	41,737
原材料及び貯蔵品	2,479,660	前受収益	178,020
前払費用	14,476	賞与引当金	177,540
繰延税金資産	199,904	その他	600,643
短期貸付金	240,540	固定負債	1,696,633
未収入金	87,376	繰延税金負債	336,244
その他の他	125,136	役員退職慰労引当金	189,831
貸倒引当金	△587	長期前受収益	741,780
固定資産	20,714,848	預り保証金	428,750
有形固定資産	15,249,509	その他	27
建物	3,326,606	負債合計	5,575,760
構築物	386,811	(純資産の部)	
機械及び装置	266,034	株主資本	33,534,280
車両運搬具	27,343	資本金	7,410,675
工具器具備品	29,645	資本剰余金	9,100,755
土地	10,774,724	資本準備金	9,100,600
建設仮勘定	438,343	その他資本剰余金	155
無形固定資産	577,474	利益剰余金	18,330,589
借地権	453,619	利益準備金	396,033
鉱業権	111,591	その他利益剰余金	17,934,555
ソフトウェア	5,163	土地圧縮積立金	523,419
その他	7,100	固定資産圧縮特別勘定積立金	167,906
投資その他の資産	4,887,864	別途積立金	17,400,000
投資有価証券	2,808,817	繰越利益剰余金	△156,771
関係会社株式	952,945	自己株式	△1,307,739
出資金	910	評価・換算差額等	86,336
長期貸付金	143,380	その他有価証券評価差額金	86,336
長期前払費用	250,913	純資産合計	33,620,616
保険積立金	459,097	負債及び純資産合計	39,196,377
その他の他	272,273		
貸倒引当金	△472		
資産合計	39,196,377		

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

損 益 計 算 書

(平成23年10月1日から平成24年9月30日まで)

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上 高		12,437,219
売 上 原 価		9,731,733
売 上 総 利 益		2,705,485
販売費及び一般管理費		1,229,302
営 業 利 益		1,476,183
営 業 外 収 益		
受取利息及び配当金	351,685	
受 取 手 数 料	94,800	
そ の 他	493,053	939,538
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	130	
そ の 他	192,975	193,106
経 常 利 益		2,222,616
特 別 損 失		
減 損 損 失	1,621,215	
そ の 他	1,029	1,622,245
税 引 前 当 期 純 利 益		600,371
法人税、住民税及び事業税	731,846	
法 人 税 等 調 整 額	50,220	782,067
当 期 純 損 失		181,696

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(平成23年10月1日から平成24年9月30日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本					
	資 本 金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金		
		資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金	
					土 地 圧 縮 積 立 金	固 定 資 産 圧 縮 特 別 勘 定 積 立 金
平成23年10月1日残高	7,410,675	9,100,600	155	396,033	482,527	164,738
事業年度中の変動額						
剰余金の配当						
当期純利益						
自己株式の取得						
土地圧縮積立金の積立					40,892	
固定資産圧縮特別勘定積立金の積立						3,168
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)						
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	40,892	3,168
平成24年9月30日残高	7,410,675	9,100,600	155	396,033	523,419	167,906

(単位：千円)

	株 主 資 本				評価・換算差額等	純資産合計
	利 益 剰 余 金		自 己 株 式	株 主 資 本 合 計		
	そ の 他 利 益 剰 余 金					
	別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金				
平成23年10月1日残高	17,400,000	603,977	△1,099,958	34,458,748	38,957	34,497,706
事業年度中の変動額						
剰余金の配当		△534,991		△534,991		△534,991
当期純利益		△181,696		△181,696		△181,696
自己株式の取得			△207,780	△207,780		△207,780
土地圧縮積立金の積立		△40,892		—		—
固定資産圧縮特別勘定積立金の積立		△3,168		—		—
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)				—	47,378	47,378
事業年度中の変動額合計	—	△760,748	△207,780	△924,468	47,378	△877,089
平成24年9月30日残高	17,400,000	△156,771	△1,307,739	33,534,280	86,336	33,620,616

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(注 記 事 項)

重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式……移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの……………期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの……………移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品、製品、原材料及び仕掛品…総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

貯 蔵 品……………最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

3. 固定資産の減価償却の方法

有 形 固 定 資 産……………定率法

(リース資産を除く)

ただし、平成10年4月1日以降取得の建物（建物附属設備を除く）については、定額法によっております。

なお、主な科目の耐用年数は、建物が8～50年、構築物が10～50年、機械及び装置が5～10年であります。

無 形 固 定 資 産……………定額法

(リース資産を除く)

なお、定期借地権については賃借期間に応じて均等償却しております。

リ ー ス 資 産……………

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年9月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

4. 引当金の計上方法

- 貸倒引当金……………債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- 賞与引当金……………従業員の賞与の支払いに備えるため、支給見込額を計上しております。
- 退職給付引当金……………従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。
ただし、当事業年度末においては年金資産が退職給付債務を超過しているため、投資その他の資産の「その他」に前払年金費用252,948千円を含めて計上しております。
なお、数理計算上の差異については、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。
- 役員退職慰労引当金……………役員の退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

5. 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6. 消費税等の会計処理……………消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(追加情報)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

(貸借対照表に関する注記)

1. 関係会社に対する金銭債権債務

短期金銭債権	3,339,832千円
短期金銭債務	75,981
長期金銭債権	140,000

2. 有形固定資産の減価償却累計額

建物	7,405,494千円
構築物	1,178,245
機械及び装置	5,028,381
車両運搬具	250,041
工具器具備品	254,006
合計	14,116,169

(損益計算書に関する注記)

1. 関係会社との取引高

売上高	7,594,795千円
仕入高	279,331
営業取引以外の取引高	165,022

2. 減損損失

当社は、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	種類	場所	金額(千円)
賃貸資産	土地	岐阜県多治見市	1,621,215

当社は、事業用資産については事業セグメントを基に、賃貸資産、遊休資産及び売却予定資産は物件ごとにグルーピングを行っております。

地価の下落により時価が著しく下落した不動産賃貸事業におけるNFC多治見店に係る資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(1,621,215千円)として特別損失に計上いたしました。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、建物及び土地については不動産鑑定評価書に基づく金額により評価しております。ただし、回収可能価額の算定に際しては、平成14年9月に㈱ダイエーとの賃貸借契約解除に伴い受領した残存賃貸借期間(平成14年10月から平成29年11月まで)に係る未経過家賃補填金(期末現在残高919,800千円)を、正味売却価額に含めております。

(株主資本等変動計算書に関する注記)

当事業年度の末日における自己株式の数

普通株式 2,687,220株

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産の発生の主な原因

①流動資産

(繰延税金資産)

家賃補填金	67,647千円
賞与引当金	67,465
未払事業税	50,990
その他の	15,836
繰延税金資産合計	201,939千円

(繰延税金負債)

その他有価証券評価差額金	△2,035千円
繰延税金負債合計	△2,035千円
繰延税金資産の純額	199,904千円

②固定負債

(繰延税金資産)

減損損失	1,604,645千円
家賃補填金	274,161
役員退職慰労引当金	68,339
投資有価証券評価損	34,039
その他の	16,112
繰延税金資産小計	1,997,297千円

評価性引当額	△1,714,724千円
--------	--------------

繰延税金資産合計	282,573千円
----------	-----------

(繰延税金負債)

土地圧縮積立金	△294,423千円
その他有価証券評価差額金	△138,885
固定資産圧縮特別勘定積立金	△94,447
前払年金費用	△91,061
繰延税金負債合計	△618,818千円
繰延税金負債の純額	△336,244千円

(関連当事者との取引に関する注記)

子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (千円)	事業の 内容	議決権 等の所有割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
子会社	中日本 肥料㈱	名古屋 市中村 区	36,500	肥料の 製造販売	直接 100	当社製品の販売 役員の兼任	当社製品の販売 (注1)	1,983,102	売掛金	774,073
							販売手数料の受 取(注2)	61,833	未収入金	23,757
							事務所の貸貸 (注3)	360	—	—
子会社	新東化 学工業 ㈱	千葉県 市原市	11,000	肥料の 製造販売	直接 100	当社製品の販売 役員の兼任	当社製品の販売 (注1)	1,310,205	売掛金	406,346
							販売手数料の受 取(注2)	91,387	未収入金	29,058
							事務所の貸貸 (注3)	360	—	—
子会社	北海道 肥料㈱	北海道 室蘭市	40,000	肥料の 製造販売	直接 100	当社製品の販売 役員の兼任	当社製品の販売 (注1)	1,572,802	売掛金	1,026,669
							事務所及び倉庫 の貸貸 (注3)	7,302	—	—
子会社	協同肥 料㈱	名古屋 市港区	310,000	肥料の 製造販売	直接 100	当社製品の販売 役員の兼任	当社製品の販売 (注1)	1,266,565	売掛金	450,548
							事務所の貸貸 (注3)	2,070	—	—
子会社	明京商 事㈱	東京都 千代田 区	60,000	肥料、 化学品の 輸入販売	直接 100	資金の援助 役員の兼任	資金の貸付 (注4)	800,000	短期貸付金	150,000
							貸付金の返済	1,100,000		
							利息の受取	3,491	未収入金	224

(注1) 当社製品の販売については、一般取引先との取引価格及び当社の予定原価を勘案して販売価格を決定しております。

(注2) 販売手数料の受取については、子会社の販売実績に応じて一定割合の販売手数料を受け取っております。

(注3) 事務所及び倉庫の貸貸については、市場の取引価格を勘案のうえ決定しております。

(注4) 資金の貸付金利は、市場金利を参考に決定しております。

(1株当たり情報に関する注記)

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 1,268円01銭 |
| 2. 1株当たり当期純損失 | 6円84銭 |

独立監査人の監査報告書

平成24年11月9日

日東エフシー株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 公認会計士 渋谷 英 司 ㊞
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 加藤 克 彦 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、日東エフシー株式会社の平成23年10月1日から平成24年9月30日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項及びその他の注記について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日東エフシー株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

独立監査人の監査報告書

平成24年11月9日

日東エフシー株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 渋谷 英 司 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 加藤 克彦 ㊞

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、日東エフシー株式会社の平成23年10月1日から平成24年9月30日までの第61期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監 査 報 告 書

当監査役会は、平成23年10月1日から平成24年9月30日までの第61期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、監査計画を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、監査計画に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）の状況を監視及び検証いたしました。子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項、その他の注記）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成24年11月12日

日東エフシー株式会社 監査役会

常勤監査役（社外監査役）

佐藤 秀夫 ㊟

社外監査役

林 茂彦 ㊟

監査役

森川 利政 ㊟

以上

株主総会参考書類

議案及び参考事項

第1号議案 取締役8名選任の件

本定時株主総会終結の時をもって、取締役7名全員が任期満了となりますので、あらためて取締役8名の選任をお願いします。

取締役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、重要な兼職の状況、 当社における地位及び担当	所有する 当社株式の数
1	わたなべ 渡 邊 (昭和24年2月25日生) <small>かたなめ 要</small>	昭和48年8月 当社入社 昭和57年11月 当社関東北事業部長 昭和57年11月 当社取締役 昭和60年11月 当社常務取締役 昭和61年12月 当社専務取締役 平成元年12月 当社取締役副社長 平成3年9月 丸菱肥料株式会社 代表取締役（現任） 平成3年9月 新東化学工業株式会社 代表取締役（現任） 平成5年12月 中日本肥料株式会社 代表取締役（現任） 平成5年12月 当社代表取締役社長（現任） 平成15年6月 明京商事株式会社 代表取締役（現任）	849,172株
2	みずたに 水 谷 (昭和29年10月17日生) <small>いさむ 勇</small>	昭和53年6月 当社入社 平成13年9月 当社不動産事業部長（現任） 平成19年11月 日東運輸倉庫株式会社 代表取締役（現任） 平成19年12月 当社取締役 平成23年12月 当社常務取締役（現任）	4,000株
3	ごとう 後 藤 (昭和33年4月6日生) <small>ひろし 浩</small>	平成5年5月 当社入社 平成17年9月 当社研究開発部次長 平成19年12月 当社取締役 平成19年12月 当社研究開発部長 平成23年12月 当社常務取締役（現任） 平成23年12月 当社製造本部長兼 研究開発部長（現任）	8,700株
4	わきだ 脇 田 (昭和29年1月22日生) <small>さだひこ 定彦</small>	昭和53年4月 当社入社 平成12年10月 当社営業本部次長 平成15年9月 当社札幌営業所所長 平成19年10月 当社営業本部副本部長 平成19年12月 当社取締役（現任） 平成19年12月 当社営業本部長（現任）	8,000株

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、重要な兼職の状況、 当社における地位及び担当	所有する 当社株式の数
5	寺嶋 隆 (昭和29年2月22日生)	昭和51年4月 当社入社 平成15年1月 当社営業本部次長 平成16年9月 当社業務部次長 平成19年3月 当社内部統制準備委員会事務局長 平成20年8月 当社業務部次長 平成22年11月 名京倉庫株式会社代表取締役 平成22年12月 当社取締役(現任) 平成22年12月 当社業務部長(現任)	10,500株
6	武田 聡 (昭和36年7月23日生)	平成10年4月 当社入社 平成12年8月 当社経理部次長 平成22年12月 当社取締役(現任) 平成22年12月 当社経理部長(現任)	4,000株
7	※川邊 宣文 (昭和39年11月24日生)	昭和62年4月 三菱商事株式会社入社 平成24年8月 当社入社 平成24年8月 当社執行役員社長室長(現任)	0株
8	※倉知 保政 (昭和33年10月22日生)	昭和56年4月 当社入社 平成10年9月 当社総務部人事課長 平成12年8月 当社総務部次長(現任)	4,000株

- (注) 1 各候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
2 ※印は、新任の候補者であります。

第2号議案 補欠監査役1名選任の件

法令に定める監査役の員数を欠く場合に備えて補欠監査役1名の選任をお願いします。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

補欠監査役候補者は次のとおりであります。

氏名 (生年月日)	略歴及び重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
柴田 清康 (昭和23年12月11日生)	昭和47年4月 柴田公認会計士事務所入所 平成2年3月 柴田清康税理士事務所開業(現任)	0株

- (注) 1 候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
2 柴田清康氏は補欠の社外監査役候補者であります。
3 補欠の社外監査役候補者の選任理由は以下のとおりであります。
柴田清康氏につきましては、税理士としての企業会計に関する専門的知見を当社の監査に反映していただくため、補欠の社外監査役として同氏の選任をお願いするものであります。
なお、同氏は、直接企業経営に関与した経験はありませんが、上記理由により、社外監査役としての職務を適切に遂行することができるものと判断しております。

第3号議案 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件

本定時株主総会終結の時をもって退任されます常務取締役杉本智氏に対し、在任中の功労に報いるため、当社における一定の規準に従い、相当額の範囲内において退職慰労金を贈呈いたしたいと存じます。なお、その具体的な金額、贈呈の時期、方法等につきましては、取締役会にご一願いたいと存じます。

退任取締役の略歴は次のとおりであります。

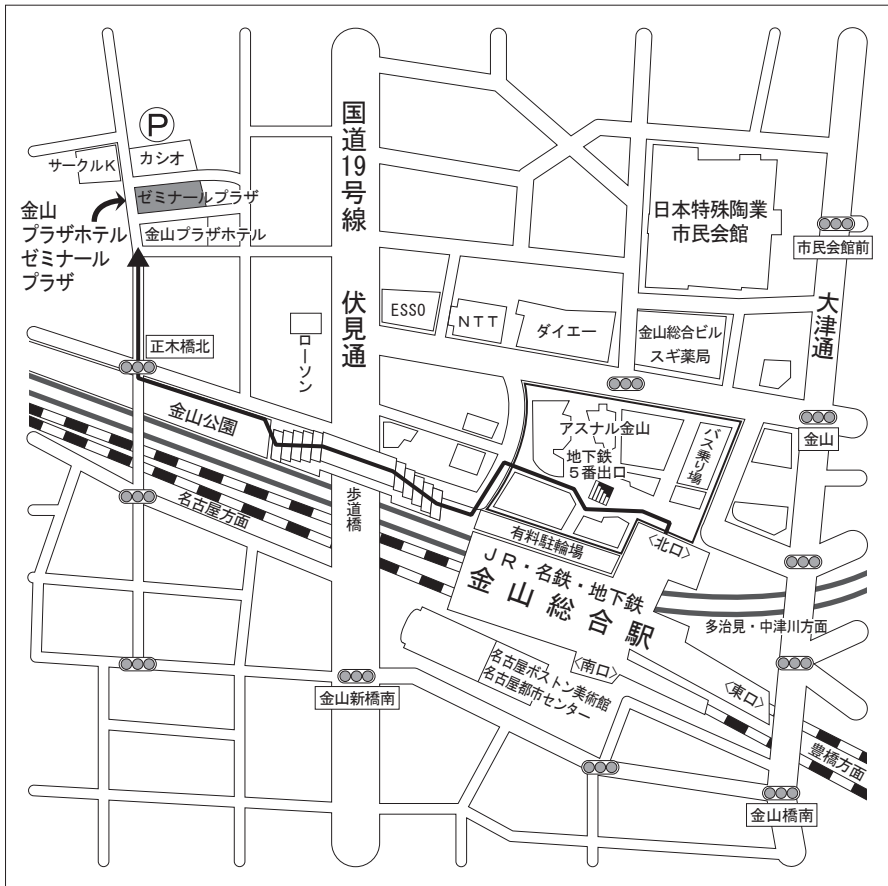
氏 名		略 歴	
すぎもと 杉 本	さとし 智	平成17年12月	当社取締役
		平成22年12月	当社常務取締役（現任）

以 上

会場ご案内図

〒460-0024 名古屋市中区正木三丁目7番15号
金山プラザホテル（ゼミナールプラザ4階会議室）
電話（052）331-6411

交通機関 JR東海・名古屋鉄道・地下鉄「金山総合駅」北口を左へ
アスナル金山（複合商業施設）内を通り、伏見通（国道19号線）
歩道橋を経て西へ200m（徒歩約7分）
（注） 駐車場は手狭のため、お車でのご来場はご遠慮下さいようお願い申し上げます。（下図の → 線に沿ってお越し下さい）



ホームページアドレス
<http://www.nittofc.co.jp/>